地域おこし協力隊
リレーレポート

竹あかりが教えてくれたこと

西予市地域おこし協力隊　シーバース　玲名

地域おこし協力隊として着任して、10月で3年目になります。わたしのミッションは「復興支援」。2018年7月に西日本豪雨により大きな被害のあった西予市野村町の商店街を中心に、多種多様な活動を行ってきました。主に、野村町に関わる人を増やすこと、野村町にお金が落ちるようにすることを軸に活動しています。空き家を活用した写真展示会「朝霧寫眞館」、商店街を子供たちで練り歩く「のむらハロウィン」。そしてわたしのことを知ってくれている方は、「ゲストハウス」、「竹あかり」のどちらかのキーワードで知ってくれている方が多いかもしれません。

地域PRを目的とした、「えひめの竹あかり」

今回の舞たうんのテーマが森林資源活用ということで、代表として活動させていただいている「えひめの竹あかり」の取組みとその想いについて紹介します。

皆さんは「竹あかり」をご存知でしょうか？竹に穴をあけ、光を灯したもので、竹あかり、竹灯籠、竹ぼんぼり…色々と呼び名があるそうです。竹あかりと出会ったのは2018年に豪雨災害支援をしていた時でした。その時は特に気に留めていなかったのですが、協力隊に着任してすぐ、当時の同じ地域の協力隊だった先輩から「全国規模の竹あかりのイベント（みんなの想火）に、愛媛県の代表として参加しないか」と声をかけられます。不安な気持ちもありましたが、全国に向けて野村町を知ってもらえる機会を作れるなら、と思い参加をすることにしました。

放置された竹林たち

地域PRのつもりで始めた竹あかり事業ですが、竹に関わる時間が増えるにつれ気付くことがありました。放置された竹林の存在感がとんでもないのです。皆さんも、もし山をぼーっと眺める時間があれば見てみてほしいのですが、家の裏など身近な斜面には竹が生い茂っているところが非常に多い。少し調べてみるとその理由はシンプルで、竹はもともと人の生活のための資源として用いられていたため、竹林は人里に身近なところにあるということでした。

竹は古くから人々にとっては身近な資源として活用されてきました。例えば、家の土壁に建築資材として、作物の収穫に用いる背負いかごや腰かごなどの日用品として、そしてタケノコは食用としてなど、多岐にわたっていました。しかし近年竹を使った製品は少なく、タケノコも輸入が主流のため竹林は放置されています。

試しに竹コップを作ってみました

災害の原因にも

そして驚いたのはその成長スピードで、その高さは1日（24時間）に1m以上伸びることもあるそうです。また、竹の根は浅く、地表30～50㎝ほどのところで横に伸び続けていき、周辺の雑木林の光を遮断していくため、竹より背の低い木は枯れていきます。雑木林だったところは次々に竹林に変わっていきます。そしてこうした斜面は保水力が低く、根が浅いため土砂崩れや水害の原因となるとも考えられるのです。

こういったことを知ってからは、竹あかりの活動に地球環境への意識も取り入れるようになりました。竹あかりを作ることで放置竹林の問題を解決することは難しいかもしれません。ですが、竹あかりを通してその問題に関心を持ってもらうことや、竹製品を使ってもらうきっかけが作れればいいなと思うようになりました。冒頭に私のミッションが復興支援だと書きましたが、災害前よりもよい状態を作る、災害が起こりにくい状態をつくることも活動の一環だと思っており、災害に強いまち野村町をつくることも一つの強みとなるでしょう。

特に春の竹はものすごいスピードで伸びる

竹あかりの魅力

竹あかりの一番の魅力は何でしょうか。多くの人がきっと、灯りそのものの美しさのことを答えるでしょう。確かに、竹あかりは心奪われるほど美しい。作っている時には気付きませんでしたが、完成して展示してみると何とも言えない、優しい灯りで、ずっと見ていられるような、そんな魅力があります。しかし、企画から製作、展示までを行っているからこそ感じる一番の魅力は、「誰にでもできる作業だが、たくさんの力を借りないとできない」ということです。誰にでもできるということは多くの人にとって関わりしろがあるということ、関わりしろがあるということはジブンゴトにしてもらいやすいということです。自分が力を貸したことがあるプロジェクトに対して、人間は基本的には放っておけないので、気になり続けてくれたり、そのことについて発信してくれたりします。要するに人を巻き込みやすいイベントだということです。

製作はたくさんのマンパワーがいる

2021年の展示の様子

今後の展望

現在、竹あかりの活動は主にボランティアの力と、助成金の上に成り立っています。次の展開は、どのようにしてお金を生み出していくか。野村町に人を呼び込むための活動ではありますが、やはりお金を生み出していかなければ継続することは難しい。継続していくことが、何よりもこれまで力を貸してくれた方々にとっての恩返しになると思うのでしっかり事業化していきたいと考えています。

※竹あかりの作り方　Youtubeで公開しています。よければ、皆さんも作ってみてくださいね。

竹あかりの作り方